

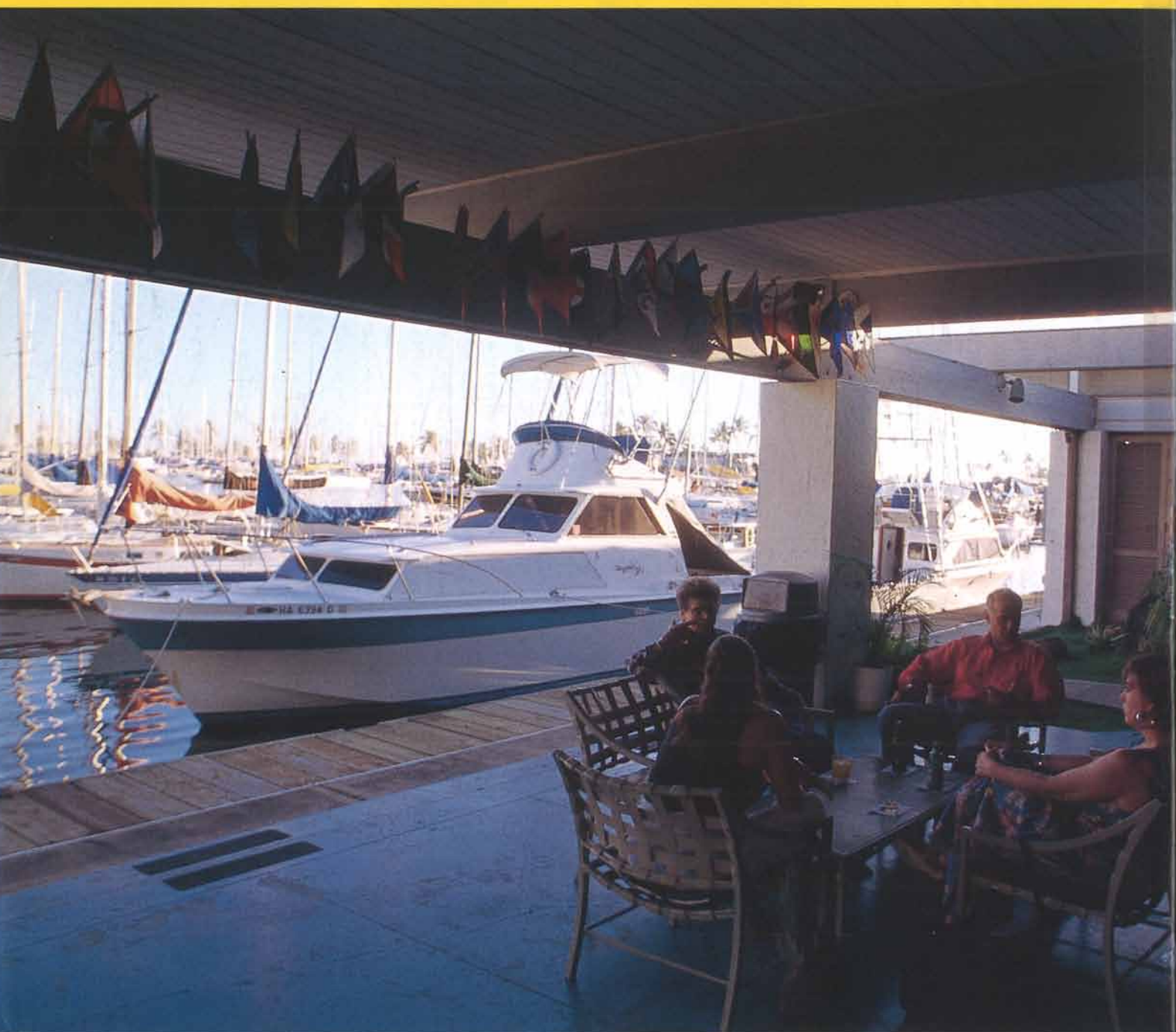
ヤマハマリンニュース

YAMAHA MARINE NEWS No.97

'94
8・9
月号

■特集/だから、うちは伸びている!

繁盛店のここだけの話





アメリカスカップに挑戦するニッポンチャレンジのヨット（ニッポン）艇のオフィシャルビルダーであるヤマハが、そこで得たノウハウを活かして設計・建造にあたったのが、Y2622（YAMAHA 26II）。そのクルージングパージョンが今回取材したEXタイプだ。PC-26からの代替でヨット購入は初めてという亀井信幸オーナーのデイクルーズにお邪魔した。

パワーボートからセイリング・クルーザーへ

神奈川県茅ヶ崎で生まれ育った亀井さん。小さい頃から海は大きな遊び場だった。サーフィン、釣り、ディンギーと手の届くマリンスポーツは何でもトライした。

そんな亀井さんにセイリングクルーザーの魅力をインプットした方がいた。茅ヶ崎の家が近くにあって多門氏である、多門氏といえば、『KAZ』誌にも原稿を寄せているヨットの大ベテランである。

「木造の大きなヨットに招かれて、好きなように遊んでいいよって言われましてね。その頃から自分で買うならヨットって心に決めていました」

ところが初めてのマイボートはPC-26だった。

「ずいぶん悩んだんですけれどね。ヨット遊びって、何度も乗らないゲストにはその楽しさが分かりにくいでしょ。だから、会社の仲間や仕事関係のメンバーを考えてボートにしたわけです」

PC-26では、伊豆大島、初島、伊豆半島などを中心にクルージングを満喫した。だがセイリングクルーザーへの思いは消えなかった。今年、いよいよ代替に踏み切ったのだ。

ゆったりとしたレイアウトがうれしい。秋にはファミリーレースに出場

6月8日に進水したこのY2622EX。マリタイム。進水以来2ヵ月足らずの間に8回出艇しているという亀井さん。ご自宅の茅ヶ崎からホームポートの逗子まで。クルマで30分足らずという住遊接近の好条件はあるものの、やはり念願のヨットで遊ぶことに改めて魅力を感じているようだ。

「ボートでね1時間走れば大島まで行ける。



●オーナープロフィール

亀井信幸オーナー（左から2人目）

台風7号の動きが気になる7月23日、逗子マリナーに集まっていたいたのは亀井オーナーの友人、宇野輝夫さんと池田雅一さん。そしてヤマハ東京・世田谷店の花岡セルス担当の4人。宇野さんと池田さんは茅ヶ崎在住で、JCのメンバー。宇野さんはマリッジエットを購入予定。また池田さんはダイビング愛好者で、やはり海好き人間だ。
ご家族を連れてのセイリングも多いそうで、みなさんのマリンプランはまたいつそう膨らみそうだ。

でもそれって決定的な魅力ではないよね。ボートにはボートのおもしろさがあるけれど多忙だからボートを選ぶということはしたくない。ヨットの静かさ、操船の楽しさ、奥深さ、波や風との対話といった自然に触れる時間が作れる。何にも替え難いのです」という。あわせて28フィート級にも負けないコックピットの広さ、そしてキャビンレイアウトも



This is it!

ショートハンドで気軽に、
かつシャープに走る。

最高の技術が結晶となった セイリングクルーザー Y262EX (YAMAHA 26II EX)



ゆったりとしたコックピットレイアウト。セイリング中はもちろん停泊中も憩いの場となる



独特な形状のパウ、ステム。この船型がスピードを生み、またキャビン内の居住性を確保した



個性的なフォルムのドッグハウス



メインのレイジージャックとファーラージブの組み合わせは標準装備。ショートハンドでも手軽な操作でセイリングが楽しめる



お気に入りだ。
「ヨットに乗るのはみんな茅ヶ崎の仲間。もっと仲間を増やして、経験を積んで。このヨットがみんなの集まりの場になればいいね」
(社)茅ヶ崎青年会議所の副理事長専務理事を務める亀井オーナー。
亀井工業(株)の代表取締役副社長の要職にあり、またその立場もあってゴルフ・スキーと趣味も多様だが、ヨットは別格という。
「これからも、世田谷店の花岡さんにコー

チしてもらって、秋にはみんなでファミリーレースに参加したいですね」とプランを話す。
「コックピットが広くて大勢でもゆったり寛げる。シンプルな船室だけど、走りのキレはいい。スピンの装備はまだそろえていないけれど、早いうちにセットして、みんなで練習したいとね」
この夏同様、亀井さんのホットなセイリングライフが続きそうだ。

CONTENTS

- 特集.....4
だから、うちは伸びている/
「繁盛店のここだけの話」
- 浜を訪ねて.....10
千葉県天津小湊/小湊鉄工所
- SERVICE.....12
当世サービスマン人物図鑑/野村モーターズ
サービスA・B・C
- YAMAHA NOW.....14
イベント、グッズ、他、ヤマハマリン最新情報
- WONDERFUL SEA.....17
高速船の理想を体現した
海の章駄天、回遊魚
- SPECIAL TOPICS.....18
「マリナー計画は生きている」

繁盛店の

ここだけの

話



9月になると、95年のヤマハニューモデルも発表され、いよいよ、来シーズンを見据えたマリビジネスがスタートする。どのような戦略で、どのように業績を伸ばしていくか——、そんな青写真はもう描かれているだろうか。今回の特集では、これまでの数年、不況といわれていたにも関わらず、確実に業績を伸ばしてきた“気になる繁盛店”をご紹介します。ビジネスに対する心構えから、物の売り方、アフターサービスに至るまで、を深ってみました。これからスタートする「95マリビジネス」のお役に立てることができれば……と思う。



●広島店



●単品ポスターは催事告知にも活用されている

暇の過ごし方うんぬんの他に、何かをア
ピールしなければ引き込むことはできな
い。それにはまず自分自身を売り込むこ
と」と強調する。

地元中小企業の経営者が顧客の中心と
なっており、年齢、社会的地位をわかま
えて、きちんとお付き合いのできること
が大切だと言う。

「デルタマリンの〇〇君だったら、マリ
ンのこと以外でも、こんなことで困って
いるんだけど……」と相談を受けるくら
いでなければ。人間を気に入ってもらっ
た、その人間がヤマハのボート、ヨットを扱
っているということなんです」

次に、そのお客さまが、どうしたいのか
を先取りし、提供していくことだと言う。
「購入する立場になって、あるいはオー
ナーになったつもりで、機装のひとつひ
とつ、クルージングの計画や準備も、お
客さまが満足できるものをタイミングよ

く提供していくこと」だからセールスマ
ンはマリンプレイのプロフェッショナル
でなければならないのだ。

また増川店長は「狙ったお客さまは逃
さない」ともいう。それは、長期間かけ、
じっくりとお付き合いし、いずれユーザ
ー化するという意味なのである。

「セールスマンが10回通った結果、購入
に結びつかなくても、担当セールスとお
客さまに、何か会話できる、お付き合い
のできる継ぎがあれば、顧客リスト上
からは外しません。

経済的、環境的、その他の理由で、そ
の方の振子がマリンの方向へ振れていな
いだけであって、きつと必ず海、ボート、
ヨットの魅力に気づく、あるいはそれが
優先されるべきときは必ずだと信じてい
るわけです」

そんな積み重ねがあつてオーナーから
の紹介客も安定しているのだ。

オーナーの遊びを広げるイベントプロモーション

●ボートライセンス取得者をユーザー化する

▼同店での4級ボートライセンス
取得者は年間約200名。毎年誕
生するオーナー予備群とこれまで
ライセンスを取得してはいるが、

ボート購入に踏み切れない層を対
象に展開しているのが「遊SEA
クルーズ」



●休眠ユーザーを揺りおこせ

▼年に4〜5回のクルージングを
実施。海の魅力、ボートイングの
楽しみ、さらに遠くへ行く楽し
みを改めて認識してもらうように企
画する。また25〜28フィートクラ

スのオーナーの代替ステップも狙
って展開している。いずれも代替
促進のきっかけづくりとしてのク
ルージングイベントである。

●大型、外洋指向をくすぐれ

▼今年、海外で本場のスポーツフ
ィッシングを体験してもらおうと
「デルタマリン・グラム・トロ
リングツアー」を企画。現在所有

のボートからのグレードアップ、
オフショア指向をくすぐるイベン
トとして大きな効果を得た。

●遊びの楽しさを膨らませろ

▼昨年開催して好評だったのが、
ライトトロリングの実技講習
会。

今年も10月15日に予定してい
る。オーナー艇に他艇のオーナー
を分乗させて専門インストラクタ
ーと共にセールス担当が密着して
フォロー。

主張と提案のあるお店が ユーザーをひきつける

愛知県瀬戸市 マリンショップ太陽 三輪一夫代表

愛知県瀬戸市は陶器で有名だが、海と縁のなさそうなお店。そこにヤマハボートの販売店があり、しかも93年度「全国販売店コンクール」のプレジャー部門で優秀店に輝いたとあっては、ききずてならない。さっそく、好成绩の機密をうかがうことにした。

トレーラーと バスボートを提案

マリンショップ太陽は交通量の多い瀬戸街道沿いにお店を構えている。ヤマハとは、代表者の三輪一夫さんが食品会社を脱サラして独立して以来、23年の古いお付き合いだ。

同社の主力商品は、釣りっ子太郎から19フィート程度までの中・小型艇とマリッジット。年間の隻台数にして1000ぐらいになる。

店には従業員を置かず、三輪さんと奥さんの照子さんのお二人で切り回している。来店者の途切れる間がなく、三輪さんはめっちゃくちゃに忙しい。照子さんが「ひどい時には2〜3時間待っているお客さんもいて、店としては逃がしている商談も多いと思うと、もったいなくて



●この店舗も三輪さんの手造り。天井から吊したフェンダーには「マリンの感動を多くの人に伝えたい」というお店のモットーが書き込まれていた

……となげくほど。三輪さんは自分のご商売の展開をプランするため、毎日、午前中の1時間を喫茶店で過ごす、その間に店の前に順番待ちのクルマの列ができてしまう。

太陽さんのこの人気の理由は三輪さんの気さくな人柄（何でも相談しやすい）と、「ほればれする」とまで評されるサービスの技術力だが、加えて、個性あふれる魅力的な提案の数々がユーザーを引きつけている。

たとえばトレーラーでのボート運びであり、バスボートディングである。

「トレーラーは法的な解釈が面倒ですが、細則ではなく、本文の主旨にのっけているという信念が重要だと思えます。問合わせは東京や大阪などからも始まるんですが、私は自分の解釈をはっきりと伝えます。そこまで言い切る人は初めて、とよく言われますよ（笑）。三輪さん自身のトレーラー歴は30年を越える。その経験を生かしたサービス対応とノウハウの提供が人気を呼んでいる。「安上がりにボートディングを楽しむには絶対に必要な方法」という信念で取組んでいるトレーラーが、瀬戸という地理的な不利の克服にもつながっている。

バス釣りも、いろいろな水域に行くことが多く、ボートとトレーラーの組合せが一般化している。三輪さんはバスフィッシングの雑誌広告にヤマハの名前が見えないのを残念がって、つりっ子太郎や12〜15フィートクラスをバスボート化して販売している。「雑誌のタックルボックスに広告を出したら、全国から反響がありましたよ」。

他のお店が手を出さない領域を積極的に開発する姿勢が優秀店受賞につながっているようだ。

ボートもエンジンも 生きもの!!

一人で営業からサービスまでこなしている三輪さんだから、お客さまに付合って遊ぶというこはしないし、納艇にさえほとんど付き合わない。一人で何役もこなす三輪さんが非常に気をつけているのは、メンテナンスサービスの時間を極力減らすということ。

そのコツは、船外機を納めるとき、慣らし運転が大事ですよというような、扱い方の基本的な方法をしっかり教えること。また、年1回のメンテ（ギヤオイルとプラグの交換、グリスアップ）の方法を教えて、ユーザーが自分で簡単に整備できるようにしておく。これだけで、特に整備キャンペーンも行わず、クレーム率を1%以下におさえている。

「そうやって大事に使っているお客さまに対して、3年ぐらいのタイミングで代替えをお奨めするんです。古いものを持たせず、新しいものをステータスとして持つてもらおうという考え方でお客さまと接しています」

ボートもエンジンも、生きていて、今のうちに替えの方がいいですよ、と説得し、下取りと追い金の説明をすれば、オーナーの夢も広がる。あまり乗らなくなったオーナーには特に効果的な手法と三輪さんは語る。「販売店もある程度の主張を持つべきだ」と言い切る三輪さんは、営業の基本方針を「金をかけず安上がりに楽しむ方法を提案し、よく説明して、お客さまの不安を除去し、とにかく安心させる」ことにしている。それが、太陽のお客さまが自然に増えている理由ということだ。

免許取得から保管場所 ゲシ、ゲシまでをフォロー！ 入門者の不安を解消する

神奈川県茅ヶ崎市 (株)ウメダモーターズ/マリンメディア 荒井一郎部長

神奈川県湘南地区で、モーターサイクルの販売を中心に事業を展開する(株)ウメダモーターズのマリン部門が「マリンメディア」。ボート、マリンジエットを取り扱う専門ショップだが、その販売比率は台数ベースで約80%がマリンジエットとなっている。マリンビジネスに参入して以来、好調な推移を続けている同社の、荒井一郎部長にお話をうかがった。

トータルバックアップで顧客をつかむ

「マリンレジャーは一般化していないだけで、その潜在需要は二輪、四輪よりも大きく、ビジネスチャンスはまだまだあるものと見ています」(荒井部長)

こうした潜在需要層に立ちふさがるハードルをクリアしていくためには何が必要か、同社のマリンビジネスはこの発想が原点にあるようだ。

「まず免許の問題。どこでどのように取るのか。本体はどこで買うのか。どこに置くのか、それとも運ぶのか。どこで遊んだらいいのか。その費用は。買い替

●マリンメディアの石井文雄店長。「基本的なあいさつからはじまって、接客時は丁寧に対応することを心掛けています」



●国道1号線に面したマリンメディアと湘南マリン海技学院。それぞれが充実した体制できめ細かにユーザーニーズに応えている

えのとき下取りはしてくれるのか。これらのテーマに対してすべて応えてあげられる一貫性を持つことが大切だと考えています」

多くの販売店で共通の認識を持っていらっしゃるのではないかとと思われるが、同社の場合、免許を「湘南マリン海技学院」で、販売は「マリンメディア」、保管に至っては「(有)リバーボート」という子会社を設立し、それぞれが独立した体制で、ユーザーのニーズにきめ細かに応えているのである。

「湘南マリン海技学院」では1級、4

級ライセンスの講習のほか、ライセンス所持者を対象にしたマリンジエットのライディングコース、未取得者を対象にした体験コースなど、幅広いメニューを設定し、潜在需要層へのアプローチを図っている。ここで得られた顧客リストは当然「マリンメディア」の貴重な財産となり、DMの発送などに役立てられる。

建設省の認可を得て、河川敷にマリーナをオープン

同社では以前から相模湾に流れ込む相模(馬入)川の河川敷にコンテナなどを置いて保管場所として利用していたが、昨年の12月にかねてより申請していた建設省の利用許可が下り、マリーナとして施設を充実。今年の6月に新規オープンさせた。現在、60艇のボートと、約100台のパーソナルウォータークラフトがそこに陸置きされている。

「地元に着した事業を展開するために時間もコストを惜しまずに進めてきたものが形になった」と荒井部長は言う。目の前を流れる河川をマリンジエットの

ゲレンデとして利用するに当たっては、地元漁協、県の水産課等を含めた相模川連絡協議会で調整を図っている。

このゲレンデは同社の顧客以外のユーザーも会員になることで利用が可能だ。夏期のピーク時には200台もの車がやって来て、300名もの人でにぎわうという。ハーバースタの大澤元俊さんによると、ローカルルールを含めた規則とマナーの啓蒙には細心の注意を払っているとのこと。新規の会員にはプリントを渡し、口頭でも利用規則を伝えて安全を維持している。

「マリンメディア」の主力商品はTL、TZ、RAなどのタンデムモデル。

「他社のジェットのユーザーは一般的に3年で休眠化してしまう。けれどマリンジエットの場合は次につながる。マリンジエットはマリンレジャーの中でも底辺に位置づけられ、それからボートやヨットへとステップアップしていく可能性を持っているからです。現にうちではTLのユーザーが共同でボートを購入するというケースが出てきました」

マリンジエットを核とした同社のマリンビジネスは総合的な広がりを見せているところだ。



●6月に新規オープンしたリバーボートマリーナはウメダモーターズの子会社、リバーボートが経営。今後も施設を充実していく計画だ

技術力を背景に 誠実な仕事振りに 口コミでユーザーが広がる

愛知県西尾市 倉内鋺金

倉内正秋代表

「お客と市場に恵まれているね」と、商売好調の理由をあっさりと言いつけてしまふ倉内鋺金の代表、倉内正秋さん。三河湾一帯をテリトリーとし、和船・船外機の販売修理が主な仕事となるだけに、この2年ほど続いたノリの豊漁がご商売の追い風になったのは確かかなようだ。

高い機装の技術で 強気のご商売

倉内鋺金さんは、社名が示すように自動車板金工事を中心に65年にスタートしたが、溶接・機装など漁師さんからの注文が多くなり、漁業中心に仕事を切り換えて今に至っている。ヤマハとは30年近い付き合いになる。

三河湾はノリ養殖とアサリ漁が主体で、倉内鋺金さんの扱いても、ノリでは23〜25フィート、アサリでは22〜25フィートクラスが中心。

三河湾のノリ市場では、この数年、モグリ船の普及が進んでおり、溶接の腕を生かし20年近く前からモグリ船に取組んできた倉内さんに機装工事が集中してい



●船外機のメンテナンスに取り組む倉内さん

る。

「機装細工では利益にならるので、新しいフネと船外機をセットで購入していただいた上で工事をするという、強気の商売をさせてもらっています」と、倉内さん。評判の技術力が結果として売り上げ増に結びついている。

また、三河湾の特徴として、一軒のノリ養殖漁家が少なくとも3隻、多いところでは6隻の船を持っていることがあげられる。このため、下取りなしで新艇が

出て行くのも倉内鋺金さんのご商売の特徴になっていく。

「最近では、アサリ漁を中心に200馬力前後の船外機も出るようになってね。250も30台ほど出てますよ。荷を積んでからのスピードが安全性に直結しますから。ノリの方も、この1〜2年、平均馬力数が60を超えるようになったね」

豊かな海を背景に、倉内鋺金さんの前途は洋々だ。

時間をかけ徹底的に 整備する船外機

とはいっても、三河湾をテリトリーにするお店は他にもあるはず。ライバルに互して約300軒、船外機台数にして1000近いユーザーを管理するまでになるには、かなりの営業があつたはずが、「女房と娘が手伝ってくれているけど、一人でやっているのと同じだからね。営業的な言葉をかけたことは一切ないよ」という答えがかえってきた。広告・DMや展示会・試乗会など、一般のお店が行っている手法は一切やっていないとのこと。「代替えのお勧めもしたことはない

し、集金にも行かない」と、この面では倉内さんは徹底している。逆に言うと、口コミだけでお客さまを増やしてきた倉内さんの技術力の凄さがわかる。そこで、倉内さんのサービスメンテに対する考えをたずねてみた。

「うちは通常の点検キャンペーンもやっていない。しかし、ノリ漁家は漁期が終わると船外機をここに一気に持ち込むようになっていく。それを、ヒマをみて少しずつ整備していく。いつ頃からか、このスタイルが定着しているんだね」

倉内さんの整備は完璧で、漁期が始まることからエンジン修理は一切ないとのこと。若干のトラブルは電話の指示でかたづけてしまう。

「船外機一台一台のカルテは頭の中に入っているから、クセもみんなわかっている」そのため、これだけ大量の管理台数をかかえながら、予備エンジンは一台も置いていない。

「予備を持っていると結局、利益につながらないことに、ある時、気づいてね」当然、エンジンを長持ちさせる扱いを始終、ユーザーに言い含めている。

「ヤマハの看板で商売をしている限り、2年ぐらいのサイクルで代替えされては困るからね」と倉内さんは言う。商品に対するこの愛着と誇りが、倉内鋺金さんの評価を支えているのだ。

「お客さんを大事にする面倒見のよい店といったら、みんなが笑うよ。人づき合いは自分でも下手だと思う。モノをいじるのが自分の人生なんだという感じがするね」

年輪のきざまれた倉内さんの顔にひそかな自信が見てとれた。

海を訪ねて

千葉県

天津

小湊

心のこもったサービスは ネットワークを活かした機動力で

千葉県天津小湊 (株)小湊鉄工所 尾崎 欣一 部長



たまりと呼ばれる櫓、イソガネ（アワビをはがす道具）、12～3kgのフンドン（このおもりの重さで潜ってゆく）など海士の漁具。深いところでは水深12m以上になる

千

葉県天津小湊の漁港に面している(株)小湊鉄工所。この地に開業したのは昭和27年のこと。今年45周年を迎えた同社は、房総半島の業務市場に無くてはならないほどの存在になっている。

同社は、外房の天津小湊にある本店と白浜出張所の2店舗を持ち、6名の体制でサービスネットワークを展開している。

「私たちはサービス業ですからね。修理はきっちりやって当りまえ。使い易くして当然。日曜、祭日も社員は当番制で、お客さまの船外機を中心に修理に対応しています。お客さま第一主義です」と話すのは尾崎欣一部長だ。

同

社は、「品質本位、お客さま第一主義、誠実、熱心、親切、完全アフターサービス」を創業当時から社訓として掲げている。

顧客数は約2000名。ほぼ100%、漁師さん相手の船外機商売だ。

’92年にリニューアルされた店舗、次代のプレジャー市場の拡大を見据えている。店の裏はすぐ漁港だ



株小湊鐵工所

- 創業……昭和24年
- 従業員……6名
- 商圏……白浜～大原(房総半島)
- 主力商品…船外機

地元漁業、業務市場に広く、そして深く関わる存在として漁師さんをバックアップする同社だが、将来の展望は鴨川に建設予定のマリーナに見通しを立てている。

毎年6月に開催される今年で11回目を迎えた鴨川マリンフェスタには毎回出展し、ボート、ヨット、マリンジェットを展示している。このミニボートショーは、海が身近にある市民が来場するとあって人気も上々とか。

また、プレジャーの販売拡大を狙ってのボート免許普及活動も積極的に年2回ほど実施しており、30～50名の受講者を数えている。



潜水漁は5月1日から9月15日まで。アワビ、トコブシなど、1日最大で25kgほど(約80コ)の漁だ。小湊漁協に所属する海士組合には約45名が登録されている

「できる限り、キメ細い仕事をしたい。なるべく漁師さんのいる近くで仕事ができることが理想的ですから、地域に密着していることが必要。房総半島は広いですからね。2店舗体制でどうにか高レベルのサービスが提供できるんです」

今 でこそこうしたサービス体制が取られているから無くなったが、かつては

(株)小湊鐵工所のみなさんの名刺には自宅の住所・電話番号が印刷されていた。

「いつでも、どこでも。電話一本もらえれば修理に駆けつけるといふ姿勢でね。船外機も丈夫になったし、体制もできたから、今はやめました」

お客さま第一主義をもの語るエピソードである。

そのお客さまは、潜水漁でアワビなどを獲る海士(あま)と、エビ網漁を営む人たちだ。明日からの漁に支障がないようにと、シヨツブ裏にあるサービス工場にはいつも船外機が持ち込まれている。

潜 水漁では25～40馬力、エビ網漁では、40～85馬力が主力だ。修理の時間がかかるようであれば、スムーズに代替船外機が用意される。

地元の漁師さんと密接な仕事をする同社ではまた、市の水産課の要請に応え、漁業教室に協力し、地域振興の一役を担っている。この漁業教室は中学生を対象とし、毎年夏に行われるもので、7月に学科、8月に船外機実習が実施されている。

参加人数は37名、講師として協力した斉藤常務、尾崎部長は、「少しでも漁業のことを理解してくれれば」とボランティア活動にも熱がはいる。

それぞれ得意分野を活かした チームワークがセールスポイント

宮城県石巻市は、三陸地方屈指の漁師街。黒潮と親潮が入り交じる金華山沖が目と鼻の先に広がるとともに、松島に代表される風光明媚で静かな仙台湾も控えている。

湾の入江では、いたるところで養殖が行われており、全国的に有名な三陸のカキをはじめ、ワカメやホタテ、海苔などの水揚げで、浜は一年中にぎわう。

ここ石巻で、おもに養殖漁船の船外機をあつかう野村モータースさんは、ヤマハが船外機を発表したときからの老舗デューラー。現在、2代目を継ぐ野村和宏さんが、父・建造さんの片腕としてサービスマンを支えている。

「ゆくゆくは家を継ごうと思っていたので、学校を出ると迷わずヤマハへ入社しました。営業部で浜を歩き、海洋普及課でヨットレースの運営に携わるなど、い

当世サービスマン 人物図鑑 ⑤



宮城県石巻市・野村モータース

野村 和宏さん

今年で35歳という野村さん。会社の若きホープとして、柔軟な発想で仕事にあたり、年間を通じて休む間のない仙台湾の養殖業をサポートしています。

ろいろな仕事を体験しました」

マリンに特別な趣味があったわけではなかったという野村さんだが、ヤマハへ入社したことで漁船からヨットまで、業界すべてのノウハウを吸収。その後、家

業に入った。

「サービスといっても、単に修理するだけでは、お客さまとのつながりは、それだけで終わってしまいます。営業マン時代に得られた一番のポイントは、とにか

くお客さまと直に話すこと。これがいまとても役立っています」

サービスマンも営業の仕事と同じように、ユーザーとの対話が必要だと野村さんは言う。

「修理依頼の電話を取ったら、まず故障状況から代用のエンジンが必要かどうかを判断します。お客さまのほとんどは漁師さんなので、故障が水揚げに影響しないように心がけます」

野村モータースさんでは、代用の船外機を常に10数台用意。急な修理に、いつでも対応できる体制を整えている。

「いま、5人の従業員で営業を兼ねたサービス体制を整えています。修理に関しては担当地域を設けていません。エンジンやギアなど、各人が持つ得意の分野を活かすためです」

担当エリアを決め、自分が引き受けた修理は自分だけで行おうとするのは、仕事のロスだと野村さんは考えている。

「1人でいくら時間をかけても直らない仕事がある、ポンと人を変えただけで、すんなり直る場合があります。ベテランのサービスマンには何でも難しく考えてしまふという思わぬ落とし穴があって、単純なことを見逃す場合があるのです。だから、ことサービスに関しては、営業のよう

4 船外機の動力伝達系統

●概要

一般的には船外機のエンジン動力伝達は〈図-1〉の様な構造からなっております。エンジンが回転している時は、ドライブシャフトに組付けられているピニオンギヤと前進（後進）ギヤが常に噛み合い、プロペラシャフト上を前進（後進）ギヤが空転し、エンジン動力はプロペラまで伝わりません。シフトハンドルを前進または後進に作動してはじめて〈図-1〉に示すようにドライブシャフト→ピニオンギヤ→前進（後進）ギヤ→クラッチ→プロペラシャフト→プロペラまでエンジン動力が伝われ、船の推進力となります。

●クラッチの種類

船外機のクラッチには、爪と爪を噛み合わせるドッグクラッチ式。電磁石を採用した電磁クラッチ式、シフトカムの代わりに油圧で制御する電動油圧クラッチ式の3種類が代表的なクラッチ方式です。

その中で構造、組み立てが簡単なため、ほとんどの船外機がドッグクラッチ式〈図-2〉の機構を採用しています。

●シフト機構

ここでは小型船外機に多く採用されています動力伝達制御装置・棒カム式シフト機構の作動についてご説明致します。

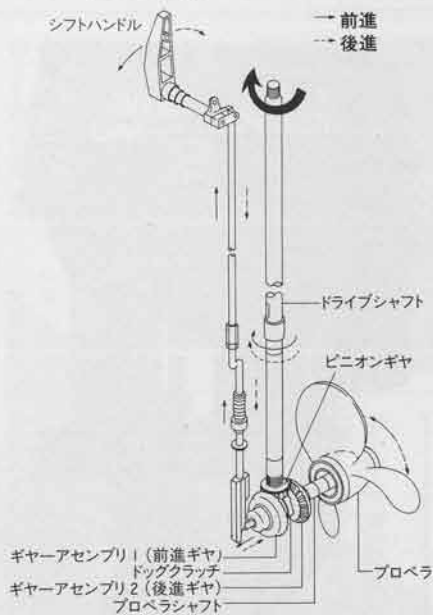
①中立の場合 〈図-4-①〉

シフトカム3段の中央部にシフトプランジャーが接触している場合で、ドッグクラッチは前進、後進どちらのギヤにも噛み合わず、プロペラシャフト上を別々の方向に空転しています。

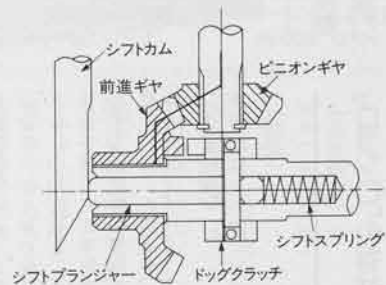
②前進の場合 〈図-4-②〉

シフトハンドルを前進に倒すとレバーシフトロッドは〈図-3〉に示すように、A点を中心にシーソー運動して、シフトロッド、シフトカムを引き上げます。シフトカムが引き

〈図-1〉動力伝達機構

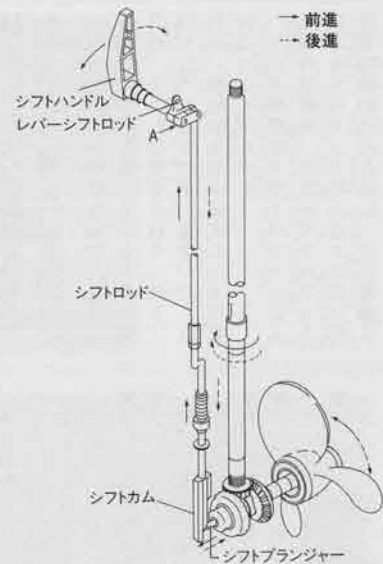


〈図-2〉ドッグクラッチ機構

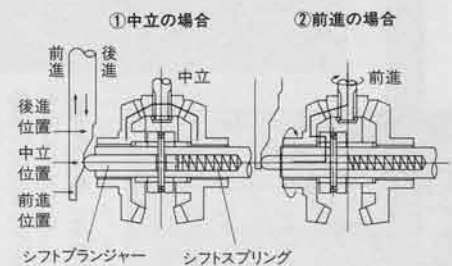


上げられたことで、ドッグクラッチはシフトスプリングにより前進ギヤ側へ押され、ドッグクラッチの爪と前進ギヤの爪が確実に噛み合うわけです。それによりドッグクラッチに回転を与え、スプラインを通じて、プロペラシャフトを前進回転させます。

〈図-3〉シフト伝達機構



〈図-4〉シフト機構の作動



③後進の場合

シフトハンドルを後進に倒すと、シフトロッド、シフトカムを押し下げ、シフトプランジャーはドッグクラッチを後進ギヤへ噛み合わせます。こうしてプロペラシャフトを後進回転させます。

[主要諸元]

●全長/15.4m ●全幅/3.25m ●全深/1.60m ●最大保証馬力/470PS



時代をリードするニューモデル
漁船発売30周年記念艇「DYI-50B-0A」
 今年で漁船発売30周年を迎え、さらに前進を続けるヤマハでは、これを記念してニューモデル「DYI-50B-0A」を発売しました。
 スタイリッシュなストレートシアタイプ船型のハルに、新型2段階ブリッジを搭載。低騒音、密封性、居住性に優れています。
 また、抵抗物を徹底排除した船底を持つV型2段チャインのハルは、横安定性を確保しながら、優れた高速性能を発揮します。
 5トン未満フルスケールモデルのため、作業スペースもグンと広がり、新機能が随所に取り入れられています。

NEW MODEL

**基本にこだわった優れたもの
 ヤマハ船外機「40V/50H」**
 世界中のさまざまな海で大活躍し、好調な売上げをみせているヤマハ船外機。このたび発売される「40V/50H」は、「海での扱い易さ」にこだわり、機能性を徹底追求した3気筒のニューモデルです。
 マルチ機能ティラーハンドルにより操作は簡単、ネガティブパワートリム&チルトシステムはエンジン性能を効率的に引き出し、より最適な走行状態を保ちます。



50H ●総排気量/698cc ●最大出力/50PS/5000rpm
40V ●総排気量/698cc ●最大出力/40PS/5000rpm

【主な特徴】
 ▼エンジンルーム内は常時最適な温度に保たれ、エンジンはベストな状態で馬力をフルに発揮することが可能。
 ▼高速走行時の水替わり機能を強化したため、イケスの機能がアップ。キールのラウンドボトム採用により、船首の波叩きが緩和。
 ▼最大保証馬力は470馬力。MD 859 KUHとベストマッチし、常備状態で34ノットのスピード性能を確保。

状態が馬力をフルに発揮することが可能。
 ▼高速走行時の水替わり機能を強化したため、イケスの機能がアップ。キールのラウンドボトム採用により、船首の波叩きが緩和。
 ▼最大保証馬力は470馬力。MD 859 KUHとベストマッチし、常備状態で34ノットのスピード性能を確保。

【主な特徴】
 ▼チヨーク操作が不要なブライムスタートシステムを導入。エンジン始動がスムーズに。
 ▼エンジン振動の吸収力が向上。
 ▼ステアリングシステムのバランス向上により、軽い操作でラクな操船が可能。
 ▼独自の防錆・電蝕防止の技術。
 ▼スイッチ操作によるチルトアップ、チルトダウンが可能。
 ▼トリム/チルトシンダラーは一体ユニットタイプを採用。ひとつのシンダラーでエンジンを操作する、軽量・コンパクトな設計。

**安全航行の強い味方
 小型船舶用膨張式救命浮器「TRF-6型」**

夏真っ盛り。海に、川に、湖に、マリネレジャーを楽しむ人が多くなる季節ですが、安全面にはいっそう気を配りたいもの。そこでヤマハでは、小型船舶に搭載可能(船検適応)な膨張式救命浮器「TRF-6型」を発売しました。
 浮器はコンテナごと水没すると自動膨張装置により自動浮揚します。コンテナから取り出し、投下してもさらに自動膨張し、手動又は補助送気管を使っての呼気でも膨張が可能です。緊急時の使用を第一に考え開発されたこの製品を、お客さまにぜひお勧めください。



●浮器本体 ●全長/1130±15mm ●全幅/710±10mm
 ●FRPコンテナサイズ 420×220×120mm
 ●東洋ゴム工業(株)製 ●希望小売価格/78,000円

【主な特徴】
 ▼浮力は2気室で47kgあり、定員は6人。
 ▼コンパクトで軽量(3.5kg)/FRPコンテナ含む。狭い船上でも大幅なスペースを確保できる。
 ▼ポリウレタンコーティング布を採用し、抜群の耐摩耗性を有する。
 ▼速くからでも見つけやすいオレンジ色。夜間でも発見しやすい再帰反射材使用。
 ▼使用後も、ポンベとマガジンを交換するだけで再使用が可能。

**「ロランC」の有効利用
 範囲が変わります**

米国で運用しているロランCが我が国の海上保安庁に引き継がれることになりました。
 平成6年10月からは硫黄島局(主



**9月7日、
 95ニューモデル発表!**
 ヤマハでは間もなく95年ニューモデルを発表します。入門者をターゲットにしたフィッシングボートから、大型艇まで幅広いラインナップを取り揃え、95年マリネに臨みます。
 どうぞご期待ください。

94シリーズの締めくくり
「遠州灘ビルフィッシュ」
「トーナメント94」開催せまる

今年も、9月2日から4日の3日間、「遠州灘ビルフィッシュトーナメント94」がヤマハマリナー浜名湖をベースで開催されます。
八重山、土佐、勝浦と各地で盛況を見せてきたビルフィッシュトーナメント。94年シリーズの締めくくりとして、ここ遠州灘でもビッグファイトが期待されます。

昨年はランディングこそなかったものの、5本以上のヒットがあり、今年の釣果に期待がかかります。

【日程】94年9月2日(金)〜4日(日)
【場所】ヤマハマリナー浜名湖を基地とする遠州灘水域

【ルール】1GFALルール適用
【問い合わせ先】遠州灘ビルフィッシュトーナメント実行委員会
☎053(578)1114

MJの頂点を極める
「94ヤマハマリネット」
ジャンボリー全国大会in
恋咲き岬 伊良湖

マリネットのビッグイベント「ヤマハマリネットジャンボリー全国大会in恋咲き岬伊良湖」を9月3日から4日に開催いたします。各支部戦を勝ち抜いた強豪たちの、迫力あるレース展開が予想されるMJCレース決勝大会。そして、息の合ったチームワークで楽しく参加できるMJチーム対抗戦。また、サブ・イベントも内容盛りだくさん盛り上がり期待されます。

【日程】94年9月3日(土)〜4日(日)
【場所】愛知県・伊良湖海水浴場

【サブ・イベント】ウエルカムパーティ、大宝探し大会、ザ・地引き網体験、ビーチギャルコンテスト、MJ体験試乗会&記念スナップ
【問い合わせ先】
ヤマハマリネットクラブ本部
☎053(594)6511



国内ヨットマッチレースの最高峰
「鳥羽カップマッチレース94」

「鳥羽カップマッチレース94」が、9月8日から11日の4日間、三重県鳥羽市で開催されます。今年で第7回目を迎える同大会は、アマチュアセイラーを対象とした国内最大級のヨットマッチレースとして位置づけられています。

昨年同様「YAMAHA 23」を使用艇として、全国各地の予選を勝ち抜いた精鋭たちが、熱い闘いを見せてくれます。

お客さまとの話題づくりにも、この迫力あるレースをナマで観戦してはいかがでしょうか。

【日程】94年9月8日(木)〜11日(日)
【場所】三重県鳥羽市
【問い合わせ先】
鳥羽カップマッチレース実行委員会
☎053(594)6516



「YAMAHA号初挑戦・初優勝」キャンペーン開催

世界一周32、000マイルを走り、見事W6クラス総合優勝を果たした「YAMAHA」号。長期間にわたり熱いご声援をいただいた皆さまに感謝の気持ちをこめて、キャンペーンを展開してまいります。お誘い合わせの上、ぜひご来場ください。

●主な内容(予定)

- ▼「YAMAHA」号 艇見学
- ▼「YAMAHA」号優勝への航跡 (VTR放映・パネル展示)

▼「YAMAHA」号のクルーウェアと同デザインのオリジナルグッズなどの販売ほか

●日程(予定)

- ▼関西地区/9月10、11日(西宮)
- ▼関東地区/9月17、18日(横浜)
- ▼中部地区/9月23日(河芸)

9月24、25日(蒲郡)

※天候等の状況でスケジュールが変更される場合があります。詳しくは、各販売会社まで。

テーマは「身近な水とのふれあい」
「第6回ヤマハ浜の風景画コンテスト」作品募集中!



毎年恒例となりました「ヤマハ浜の風景画コンテスト」。絵を描くことにより身近にある水の素晴らしさに気づいてもらおうと、今年も全国の小学生および幼児を対象に、作品募集を始めました。お客さまにぜひお知らせください。

詳しくは、今号のマリンニュースにはぎみ込みのパンフレットをご覧ください。

95年ビジネスに役立つ「95ヤマハマリカレンダー」

ヤマハでは年末から来年の商戦に先がけ、今年も3種類のマリカレンダーをご用意いたしました。顧客フォロー、新規予約プレミアム、誘店策、店頭販促など、ご商売にぜひお役立てください。



●Sea Spray 51.5×72.8cm/全7枚



●Wind & Wave 36.4×51.5cm/全13枚



●大漁カレンダー 51.5×36.4cm/全13枚

ヤマハマリンアカデミー

第8期('94年9月までの)の開講スケジュール

マリンアカデミーの第8期開講スケジュールをお知らせします。

●お問い合わせは、担当販売会社まで。また、6名以上でのお申し込みは、スケジュール等ご相談に応じます。

講座名	日程
エンジン講座 I	※第8期は修了しました。
エンジン講座 II	
航海講座 I	
航海講座 II	
ヨット講座 I	
ヨット講座 II	
スポーツフィッシング講座	8/4~5 9/9~10
商品概要講座	※第8期は修了しました。

募集対象者...マリンプラザ、マリンショップ、サービスショップ、サービス指定店、ヤマハ販売会社のマリン営業マン、マリンサービスマン及びマリンパーズマン

開催場所...●ヤマハ発動機株式会社・研修会館
静岡県磐田市新貝2500 ☎(0538)35-9711
●ヤマハマリーナ浜名湖
静岡県湖西市入出字長者1380
☎(053)578-0713
●マリンアカデミー事務局
静岡県浜名郡新居町向島3380-67
☎(053)594-6518 FAX.(053)594-6510

マリンアカデミー修了者

(敬称略・順不同)

- ▶ヨット講座 I
村上正智(仙台店)、中村隆明(世田谷店)、橋本耕(世田谷店)、田中一弘(ダイイチ)
- ▶ヨット講座 II
柴田孝史(SC城ヶ島)、新家雅史(SC東京)、藤原信哉(SC城ヶ島)、鈴木茂雄(SC東京)、水野守彦(SC名古屋)、進藤良平(肥後橋店)、久保順裕(ヤマハ熊本)
- ▶エンジン講座 I
田中一弘(ダイイチ)、吉松裕人(シンワマリン)、大藪元明(日本ライン)、井戸利孝(日本ライン)、内山誠夫(本社)、高木克也(本社)、兼野竜二(本社)
- ▶航海講座 I
他力啓二(世田谷店)、本堂秀水(世田谷店)、須藤卓治(葛飾店)、波田野大介(SC御津)、杉浦弘明(名古屋店)、佐古田厚志(肥後橋店)、飯田勝哉(高知店)、内山誠夫(本社)、高木克也(本社)、兼野竜二(本社)

YAMAHA ON and OFF

マリン、そして、モーターサイクルの世界が生み出すドラマを、ヤマハならではの感覚でとらえたテレビ番組ON and OFF。今月も海の魅力、陸の魅力を、大いに満喫する人々の姿を通して、余すところなくお伝えしていきます。ご期待ください。

■テレビ北海道	土/18:30~18:45	■奈良テレビ	金/18:45~19:00
■東北放送	金/24:40~24:55	■テレビ和歌山	土/18:30~18:45
■テレビ東京	日/18:30~18:45	■テレビせとうち	土/18:30~18:45
■静岡放送	日/10:45~11:00	■伊予テレビ	土/11:30~11:45
■テレビ愛知	土/18:30~18:45	■テレビ新広島	木/24:35~24:50
■三重テレビ	水/24:30~24:45	■T.X.N.九州	土/18:30~18:45
■テレビ大阪	土/18:30~18:45		



TOPICS
「第16回ビッグフィッシングツアー」

国内最大規模を誇る「ヤマハボートフィッシングコンテスト」。昨年の各地大会の入賞者の中から抽選で選ばれた方が、5月26日から29日の「はいむるぶしビッグフィッシングツアー」に招待されました。服部名人を招いての釣り講演会、フィッシングコンテスト、西表島の観光、マリンブレイ等、参加者たちは楽しいひとときを過ごしました。

ひと足早く真夏を体験
「八重山MJDアドベンチャー
ツーリング94 inはいむるぶし」

マリンジェットライダーたちの人気イベント「八重山アドベンチャーツーリング94 inはいむるぶし」が、6月2日から5日の4日間にわたり開催され、46名が参加しました。果てしなく続く青空のもと、25台のマリンジェットが小浜島をスタート。コバルトブルーの海に幾本もの白い曳き波を描きながら、徐々にスピードをアップ。干潮時にだけ現わ



続々とヒットの情報
「94ビルフィッシュトーナメント」

今年もビルフィッシュの本格的なシーズンを迎え、全国各地でトーナメントが開催されています。6月16日から18日にかけて行われた「八重山ビルフィッシュトーナメント94」には全国各地から12チーム34名のアングラーが参加。39・5kgのクロカワカジキを釣り上げたマリニア・スポーツF.Cの高橋弘隆氏が個人優勝、最大21・2kgのキハダマグロを5本上げたNKK・オーがチ



勝浦ビルフィッシュトーナメントでは「バナナ」チームが50lbテストラインで149.6kgのクロカワカジキを釣り上げ、チーム優勝を飾った

ーム優勝を飾りました。関西でも最大規模のトーナメント「勝浦ビルフィッシュトーナメント」が、7月14日から16日にかけて開催されました。65チームのオーナーボートとチャーター艇1チームが参加し、絶好のコンディションのもと、最大151・5kgのクロカワカジキを筆頭に合計9本のカジキがランドイングされ、会場は沸き返りました。

海で、マリナーで、ショップで、お客さまに教えてあげたい、海のうんちく。

高速船の理想を 体現した 海の韋駄天 回遊魚



す ばっこいイカや小型の魚を捕らえて食べながら、大洋を渡るマグロやカジキなどの回遊魚の体は、密度が高く、抵抗の大きい海中を高速で、長距離を泳ぐのに適応しています。外形だけでなく内側にも工夫が凝らされ、限られた筋肉を原動力にする彼等はその適応の工夫が徹底しています。今回はその辺を追究してみましょう。

まずはサカナ全体の形から見てみましょう。海水との摩擦抵抗は体に沿ってなめらかに流れる層流のときは小さいのですが、渦状の乱流になると急に大きくなります。そこで乱流を起こしにくくする工夫が必要です。カツオやマグロの属するサバ科魚類の体型は紡錘形で断面はほとんど円です。もっと詳しく調べてみると層流翼型といい一番太いところが中央よりやや後ろ寄りにあります。この体型は乱流を起こしにくくする工夫です。ヒレ以外に唯一飛び出した眼も抵抗増加に影響の少ない位置にあり、そのうえ段差を整えるように皮膚が盛り上がっています。

サカナに限らず海の生き物の多くは体表から粘液を出してヌルヌルしています。これも抵

抗を減らすのに役立つのです。ウナギ塗料とも呼んでいる自己研磨型の船底塗料がありますが、摩擦抵抗の減少に効果があります。高価な塗料ですが、中東から油を運ぶ巨大タンカーにも塗られていて、燃料の節約に効果があり、短い期間で採算が取れるということです。更に回遊魚は鱗もほとんどなくのっぺりしています。

次 にヒレの話し。回遊魚では推進力の大半を尾ヒレから産み出します。それ以外のヒレは減速したり方向転換する時に使います。使わないときには抵抗にならない工夫で、胸ヒレは同じ形をしたくぼみにはめ込み、腹ヒレや背ヒレは溝の中にたたみ込みます。魚市場や図鑑ではヒレをたたんだ姿は判らないけれど、幾つかの水族館でカツオ・マグロ類の飼育が試みられ、見ることができるようになってきました。水槽のカツオを見て図鑑と違うと言う指摘まで出るほど違った形に見えます。パショウカジキも体より大きなその背ヒレを溝の中にしまう事ができるのです。

尾ヒレの付け根にある隆起や背ヒレと尻ヒレの後ろにある上下15枚程の小さなヒレ(小

離鱗)は尾ビレを早い周期で振る時に起きる乱流を制御する働きがあります。航空機に使われているポルテックスジェネレータと同じ機能でしょうか。他にも胸周りの2/3もある鰓孔から呼吸に使った海水を出して、流れの剥離を防ぎ海水との摩擦抵抗の増加を押さえる工夫もされています。先端の航空機の主翼に取り入れられているスラットという境界層制御装置のようです。

サカナは変温動物なのに筋肉を効率的に働かせるために成長したマグロの体温は周りの水温よりも数度以上高くなっています。血液の流れも熱を逃しにくい仕組みになっています。摩擦抵抗を減らす表面積の少ない体型は体温を保つことにも効果を上げています。

こ うやっているいろいろと回遊魚の体の仕組みを書き並べてみると、人間が船を速く、経済的に走らせようとしてきた工夫のほとんどが彼等の体には実現されているのに気が付きました。マグロの外形と全く同じ形に作った模型を水槽の中で引っ張る実験でも、計算してみるとそのサカナの体の筋肉ではそんなに早く泳げるはずがないのです。体の形だけでなくいろいろな工夫を積み重ねてスピードを稼いでいるのです。回遊魚は高速で泳ぐためにひたすら装飾を削ぎ落として進化してきました。それがかえって機能的でとても美しく見えます。最近のデザインのヨットのキールやラダーはその断面形状を研究する事で高性能になり全体の面積もずいぶん小さくなってきました。形もサカナの鱗に似てきたと思いませんか。海の中にはずいぶんたくさんの種類の魚が住んでいて、それぞれに違った生活をしています。人間が海の乗り物を工夫するとき、目的に近いサカナの体を調べて見たらまだまだ知らなかった海への適応方法が見つかるかもしれません。



ワイキキにあるハワイ州の「公共マリナー」。過剰な施設はないが、ガスや水道、電気、電話が棧橋の船に引いてこれる。実際、愛艇で生活しているオーナーも多い

ヤマハはもちろん、各地で積極的に泊地整備

マリナー計画は生かすところ

平 成6年8月、福島県のいわき市に東北地方としては初の本格的マリナー

「いわきサンマリナー」がグラントオープンする運びとなりました。陸・海合わせて273隻の保管能力を有するこの大型マリナーは、福島県いわき市、ヤマハなどが参画している第3セクター・小名浜マリナーによって運営されます。

このマリナーの出現を誰よりも望んでいたのは、地元のポート&ヨットの愛好者達に他なりません。また、この地域を市場にご商売を展開している販売店にとっても、今回のマリナーオープンは大きな意味があります。お客さまが安心してポートを保留する場所を提供できることはもちろんですが、それだけでなく、今までマリナーレジャーに対して無関心だった方への話題提供、そして刺激——。これからのご商売にとって、とても有意義な環境が整ったわけです。

国 民のレジャーに対する関心が高まる数が増加に増加、それとともに、国内水域におけるプレジャーボートの泊地不足という問題がクローズアップされました。それに対応するようにして運輸省が昭和63年に発表した「MARINE 99」計画の中で、全国マリナー整備方針を策定しました。

具体的には1999年までに、当時あった放置艇や不法係留艇をゼロにしようという目標のもと、第3セクターを含む公共マリナーを100港、簡易係留施設

11プレジャーボートスポット、(PBS)を800カ所整備するというものでした。

運 輸省のほか、水産庁ではフィッシュマリナー計画を発表して話題を呼びました。これは漁業と海洋性レクリエーションの共存共栄を目指し、漁港区域内にプレジャーボート用の保管施設を整備すること、新たな漁業のあり方を模索しようという試み。整備目標は100港で、すでに和歌浦漁港などで稼働しています。

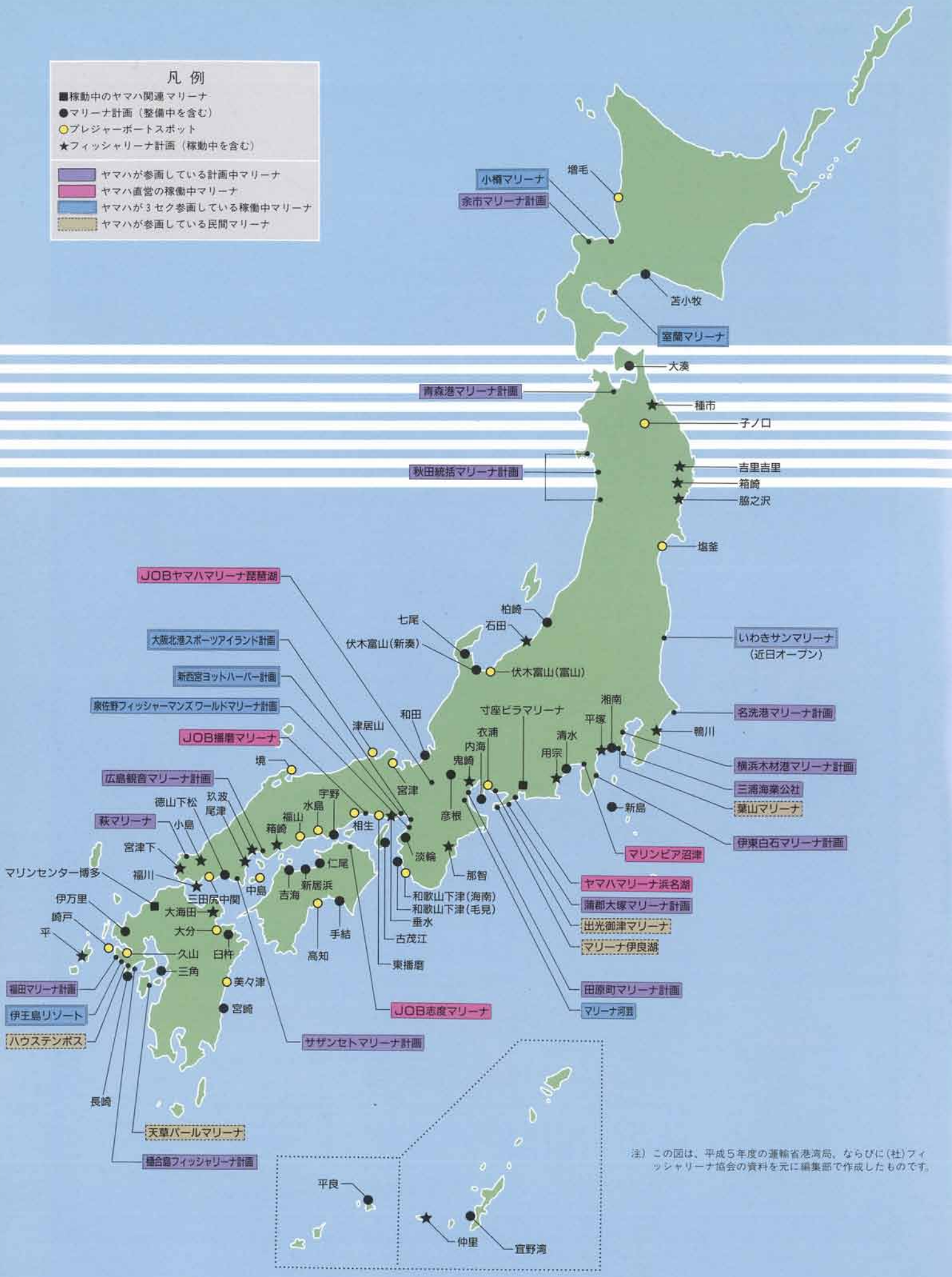
また、建設省では河口域を含む河川や漁港区域以外の海岸線を管理・管轄していますが、同省で構想しているのは東京都の隅田川や埼玉県の新柴川など12カ所の係留施設の整備。すでに静岡県の大東マリナー、三重県のマリナー河芸などがオープンしています。

平 成不況の影響で滞っているのではとも思われそうですが、これらの計画は確実に進められています。図は運輸省や水産庁等の資料を元に作成したものです。すでにヤマハも出資し、計画を進めている第3セクターも多くあります。またこれらの計画以外にもマリナー販売店が地元漁協などに働きかけ、フィッシュマリナー整備を提案するなど積極的なケースもあるようです。ご商売にとって欠かすことのできない係留場所の確保も、これからは選択肢が広がっていくのではないのでしょうか。

※おことわり／マリンショップ見聞録は今回休載させていただきます。

凡例

- 稼働中のヤマハ関連マリナー
 - マリナー計画（整備中を含む）
 - プレジャーボートスポット
 - ★フィッシャリーナ計画（稼働中を含む）
-
- ヤマハが参画している計画中マリナー
 - ヤマハ直営の稼働中マリナー
 - ヤマハが3セク参画している稼働中マリナー
 - ヤマハが参画している民間マリナー



注) この図は、平成5年度の運輸省港湾局、ならびに(社)フィッシャリーナ協会の資料を元に編集部で作成したものです。

HOT EYE

第6回ホイトブレッド世界一周レース 〈YAMAHA〉初挑戦、初優勝なる。

テムズ川、タワーブリッジを優勝記念セーリングする 〈YAMAHA〉 (6月14日)



表彰式にはヨーク公アンドリュース王子の臨席をおおげ優勝杯を受けとった。そこの羽織でのぞんだ〈YAMAHA〉のクルー小松選手もほっとひと息の様子だ

6月3日、サウサンプトンにフィニッシュ。ステアリングからも手を放し、〈YAMAHA〉の11人の男たちは、互いに握手し、抱き合い、喜びを現わした

1993年9月25日、サウサンプトン(英)をスタートした第6回ホイトブレッド世界一周レースは、6月3日に同地にフィニッシュした〈YAMAHA〉の初挑戦、初優勝というビッグニュースでフィナーレを迎えました。

オーシャンベンチャーズ(NZ)とともに結成した「ヤマハ・ラウンド・ザ・ワールド」シンジケートは、ホイトブレッドレース史上初の2ポートキャンペーンを展開。1号艇で得たデータを活かした2号艇でレースに挑み、第5レグで通算成績1位を奪取、第6レグで3着をキープし、初挑戦、初優勝の快挙を成し遂げたのです。

今大会から設けられたW60クラスへのエントリー、ニュージーランドと日本のダブルフラッグによるチームづくり、史上初の2ポートキャンペーン、そして初の日本人クルー(小松一憲)の乗艇など、当初から話題の多かったレースでした。

初挑戦で得られたさまざまなデータや体験が、有形無形の財産となり、きっと日本のマリン界にお役に立つときが来るものと信じます。

長期にわたってのみなさまのご声援に感謝いたします。ありがとうございました。

〈YAMAHA〉成績

通算所要時間	第1レグ	第2レグ	第3レグ	第4レグ	第5レグ	第6レグ	総合
120日14時間55分00秒	3	4	3	3	1	3	1位

7月20日発行の〈Captain's World Special Issue 初挑戦、初優勝 YAMAHA号の記録〉をお客さまにおすすめぐさい。

『YAMAHA号初挑戦・初優勝』記念キャンペーンを各地で開催予定です。

※詳細は本誌YAMAHA NOW(P.15)をご覧ください。

待望の“Round the World”ビデオ発売開始

大自然を舞台に繰り広げるセイラー達の壮絶な闘い

WINNING SAIL

〈YAMAHA〉初挑戦・初優勝の軌跡

全航程32,000マイルにおよぶホイトブレッドレースをビデオと本にまとめた〈WINNING SAIL〉が発売されます。みなさまのお店でもぜひご活用ください。

お申し込みなどにつきましては、本誌はさみ込みをご覧ください。

